

臨床心理士試験対策講座における 総長先生の授業を見学して学んだこと

福祉専門職支援室 主任
保泉恵利

「良い大学とは、教育という商品が優れていて、人材を育てる、チャンスを与えて『できなかった生徒をできる学生』にして、学生をエリートにし、幸せにする大学である。」この言葉は、入職当初に総長先生からは拝聴したお言葉であり、今でも私の心に強く残っている。

私立大学は教育という商品を売っていることになるが、同時に資格取得という実績が大切である。社会福祉士、精神保健福祉士等の国家試験合格はもとより、公務員採用試験や教員採用試験の合格者の増加は信頼に直結する実績ということで、総長先生が大学創立当初からお力を入れておられる分野である。先日の全体ミーティングでも「公務員や教員採用試験の合格が増えることは、高等学校の先生方から信頼され、その結果として入学者が増え、少子高齢化の世の中で生き残れる大学となる」というお言葉を拝聴し、改めて、現代社会の私立大学には教育的効果をあげて結果を残す本物の教育が必要なのだ実感した。

では、教育的効果をあげる本学独自の教育方法とは何か。本日の臨床心理士試験対策講座における総長先生の授業を見学して、その秘密を改めて理解した。それは、総長先生がハーバード大学教育学大学院で研究開発された本学独自の教育方法であった。教員は授業の中でわかりにくい専門用語を避け、わかりやすい資料を作り、学生に資料を読ませる。そして、重要だと思うところにはアンダーラインを引かせる。その後、ディスカッションで自分の意見を発表しながら他人の意見を聞き、ポイントを明確にしていく。このような作業を通して、学生は読解力・思考力・問題解決能力・コミュニケーション能力が鍛えられ、総長先生の独自の教育方法によって、学生の様々な能力が伸びていくのだと思った。

この効果的な学習方法の素晴らしさは、総長先生が在職されていた当時、実際に合格が難しいとされている公務員試験や臨床心理士国家試験に多数の合格者を輩出していたという実績が証明している。その証に、今まで福祉を専門的に学んだことのない私が、在職当時の総長先生の社会福祉士国家試験特別対策授業に参加させていただいた際、過去問題で満点をとることができ、大変驚いたことは今でもよく覚えている。今回は臨床心理士試験対策授業の論述問題に取り組んだ。教科書や事前に提示された解答例をもとに大事な要点を抜粋し、整理したうえで清書し、教員に確認してもらう。そして完成した小論文を暗記し、試験本番は暗記した論文を思い起こして記述する、という論文試験に合格する方法を教えてくださいました。また、授業では教員が一方的に先に進めるのではなく、学生がどこまで理解しているかを一つ一つ確認しながら進行されており、本物の効果的な学習方法を実感した。

私は、総長先生の教育理念のもと、東京福祉大学 福祉専門職支援室の職員として、全ての学生が充実した実習を行い、無事に資格を取って卒業し、社会で活躍できる人材となるよう支援するため、学生や実習施設、教職員にとってわかりやすい資料作り、また相手がどこまで内容を理解しているか確認すること等を心掛け、日々業務に邁進していく所存である。